

中小の知恵



住友精密工業と中小企業が
脚部を納入する小型ジェ
ット旅客機「MRJ」
(三菱航空機提供)

大空に

兵庫県尼崎市に本社を置く航空機部品メーカーの住友精密工業は20日、同部品に参入経験のない関西の中小・零細企業と共同で中小型航空機の脚部を製造するプロジェクトに着手した。13年までに脚部を完成部品として一括納入する体制を整え、世界的な中小型機の需要拡大に対応する。近畿経済産業局によると、航空機部品の大手メーカーが地元の中・零細企業に呼びかけ、共同で航空機部品を納入するのは全国で初めてという。

【横山三加子】

住友精密工業は国内唯一の航空機の脚部製造会社で、カナダのボンバルディア社などに納入している。脚部は離着陸時にタイヤを支え、離陸後は格納する主要部品。三菱重工系の三菱航空機が製造を始めた国産初の小型ジェット旅客機「MRJ

(三菱リージョナルジェット)」にも納入の予定で、「メード・イン・関西」の技術が大空を舞うことになる。

プロジェクトに参加するのは、大阪市の機械加工メーカー、中川鉄工はじめ大阪府や兵庫県の機械部品メーカー約10社で、いずれも航空機産業は初参入。住友精密工業

住友精密と関西10社 脚部を製造

は社員らを派遣し、部品製造に向け技術指導などを始めた。

住友精密工業は脚部の主要部品の3割程度は自社で製造しているが、残りは海外から輸入している。国内に製造会社がないためだが、同社は「国内の部品メーカーは自動車部品の技術の蓄積がある。輸送コストや納期、品質の面からも国産部品の方が良い」と力を込める。離着陸の安全にかかわり、高い精度が求められる脚部の部品を一体納入できれば、ボーイングやエアバスなど海外の航空機メーカーからの受注も期待できるとい